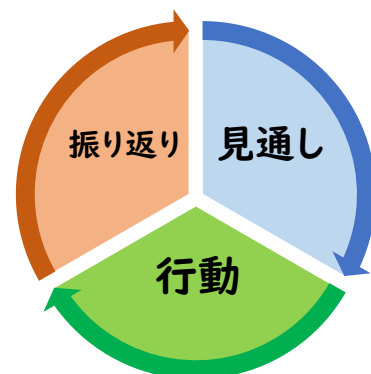


1 体の動きを高める運動領域における研究主題の捉え方

(1) 体の動きを高める運動領域部会における研究主題の捉え方

体の動きを高める運動領域は、「子供一人一人の目的に応じて、学習課題を設定し、課題解決しながら体の動きを高めていく」という特性がある。本部会では、研究主題を受け、自ら学び続ける力を身に付けることができた子供の姿を、「子供自身の学習課題を見いだし、自らの取組を他者と比較しながら振り返り、新たな学習課題を見いだすことができている姿」と捉えている。学習課題を見いだすことは自ら学び続ける力と関連性があると考えている。

子供が見いだした学習課題を一単位時間で「見通し」→「行動」→「振り返り」…といった学びのサイクルを回せることを目指している。学びのサイクルを回しながら課題解決する経験を積み重ねることで、学びのサイクルの推進力が強くなり、自ら学び続ける力が高まるであろうと考えた。



(2) 研究の重点

① 運動の楽しさや課題解決の喜びを味わうことができる運動例の設定

→体づくり運動を行う上での楽しさや課題解決の喜びを味わえることを前提とし、「体の動きを高めることにつなげることができる」「仲間と関わりのある」等の視点で、運動例を検討し、充実を図る。

② 体の動きを高めるための学びのサイクルを子供自ら回すことができる多様な学習環境の工夫

→自ら体の動きを高めることの必要感を感じられるような学習環境の整備や学習資料の充実を行っていく。子供の学習状況を見とりながら、多様な方法で学びの共有を図れるようにする。

③ 自ら学び続ける力を身に付けることができる第6学年の学習過程と指導計画の立案

→学びのサイクルを子供自ら回す中で、体の動きを高めることの必要感を感じながら、課題解決を図り、新たな課題を見いだすことにつなげ、自ら学び続けることができる第6学年の子供の育成を目指していく。

(3) 研究主題を実現するための手立ての工夫

① 運動の楽しさや課題解決の喜びを味わうことができる運動例の設定

子供一人一人が、運動の楽しさや課題解決の喜びを味わうことができるよう、運動開発の視点に新たな要素を加えた。その要素は、用具や場を見ただけで、「あの場ではあんな運動ができそう」「この用具で、こんな動きをしてみたい」と、運動のイメージを広げられるような運動であるかという点である。その要素を踏まえ、今年度の第6学年の部内授業で取り扱う運動例を以下の通り設定した。

体の柔らかさを高めるための運動	巧みな動きを高めるための運動	力強い動きを高めるための運動	動きを持続する能力を高める運動
・エンジョイストレッチ	・長なわ+ ・スラックレール ・ペットボトルバンパー ・風船けまり	・ガロンスロー	・ハンズクラップ

◆令和7年度に新たに加えた運動例

ガロンスロー(力強い動きを高めるための運動)



準備するもの

水の入った2Lのペットボトル、走り高跳びのスタンド、ゴムひも、エバーマット

もとの動き

用具 2L ペットボトル1本

距離 2m

高さ 120cm

姿勢 前向きの立位のまま両手で投げる

② 体の動きを高めるための学びのサイクルを子供自ら回すことができる多様な学習環境の工夫

ア 共有内容の具体化

体の動きを高める運動では、自己の体力に応じて学習課題をもち、課題解決に向けて動きのポイントや工夫を意識して運動に取り組むことが、自らの動きを高めることにつながる。そのためには、学び方の理解や見通しをもたせる全体での共有と、運動の内容や学びの状況に応じて柔軟に共有タイムを設定したり、子供同士で自然に学び合えるような場を設けたりすることが重要である。本部会では、そうした学びの質を高めるために、全体で共有すべき内容と取り組む運動ごとの小集団で共有し合う内容を以下のように整理した。

全体の学び	・目的意識をもち(高めたい力を意識して)、運動に取り組むこと。 ・ポイント(体の部位をどう動かすか)を意識して取り組むことで、体の動きを高められること。 ・動きを工夫して取り組むと、より体の動きを高められること。 ・仲間との学び合いを増やすことで、より体の動きを高められること。
小集団の学び (取り組む運動ごと)	・他者の動きのこつを知ること。 ・他者の工夫した動きを知ること。

イ 単元において共有したい内容とタイミングの目安

6年	心と体の関係性に気付く	1	体ほぐし運動を通して、「体への気付き」「体の調整」「仲間との交流」を理解できるようにする。			
		2				
	<Ⅰ期> 学び方を知る段階	1	運動との出会い やってみる			
		2	目的意識	ポイント	動きの工夫	学び合い
		3				
		4				
	<Ⅱ期> 学び方を生かす段階	5	目的意識	ポイント	動きの工夫	学び合い
		6				
		7				
		8				

ウ 自ら学び続ける力を身に付けるための環境整備(共有スペース)

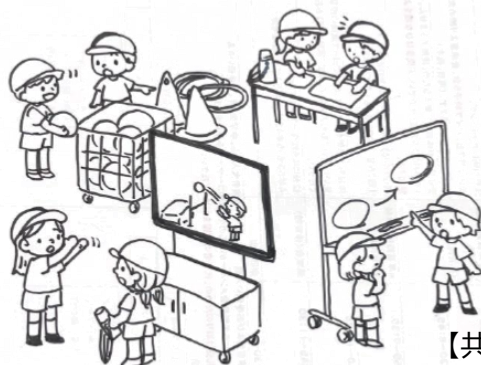
「体の動きを高める運動」では、子供が自己の課題に気付き、課題解決に向けて主体的に取り組む姿を育てるために、運動の場での共有と共有スペースでの共有を意図的に促していきたい。

◆運動の場での共有

運動に取り組むその場で、子供同士がコツや工夫を言葉にして伝え合う即時的な関わりを重視する。また、タブレットを活用して自分の動きを動画で確認したり、友達の動きを真似したりすることで、気付きや改善の視点を広げられるようにする。

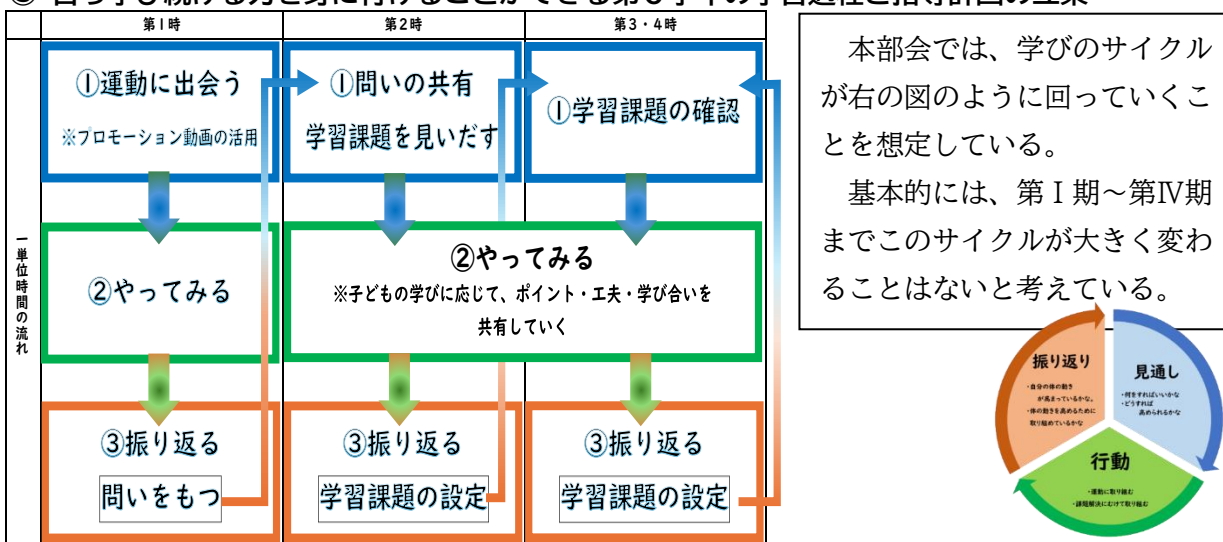
◆共有スペースでの共有

共有スペースは、子供たちの学びが蓄積し、広げる場とする。自分や仲間が見付けた工夫や気づきをホワイトボードや掲示に記録し、それを見た他の子が新たな発見や挑戦につなげられるようにする。「学びを残す・広げる」場としての価値付けを意図し、トークカードや掲示物、動画などを活用して、友達と対話しながら次の学びを考えられる環境を整える。



【共有スペース イメージ図】

③ 自ら学び続ける力を身に付けることができる第6学年の学習過程と指導計画の立案



本部会の目指す子供の姿となるように、第5学年、第6学年の2年間で行う全20時間を体ほぐし4時間と、残り16時間を4時間ずつの第Ⅰ期～第Ⅳ期に分けた。具体的に段階を分け、指導する内容や児童が考えたり選択したりする内容を明確に設定した。

		第Ⅰ期【目的意識をもつ段階】				第Ⅱ期【学び方を知る段階】					
	第1時	第2時	第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時	第7時	第8時	
第5学年	体ほぐし	運動との出会い ①を やってみる			②		運動との出会い ①・②を やってみる			③	
					③					①・②	
		第Ⅲ期 【第5学年までの学習を生かして運動に取り組む段階】				第Ⅳ期 【簡単な運動の組み合わせを考える段階】					
	第1時	第2時	第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時	第7時	第8時	
第6学年	体ほぐし			②	③		①・②・③ から やってみる				①・②・③・④・⑤
		①	④	①・④							

部内授業では、第5学年で十分に体の動きを高める運動の学びに触れられていない実態を踏まえ、第6学年のみの学習過程に基づき、授業を行った。

		第Ⅰ期【学び方を知る段階】				第Ⅱ期【学び方を生かす段階】			
		第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時	第7時	第8時
第6学年	体ほぐし	運動との出会い ①を やってみる	②		③・④	⑤をやってみる	②		
			⑥			①・⑥	①・②・③・④・⑤		

2 学習指導案

(1) 単元の目標

知識及び運動	ねらいに応じて、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動きを高めるための運動をすることができるようにする。
思考力、判断力、表現力等	自己の体の状態や体力に応じて、運動の行い方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動したり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。

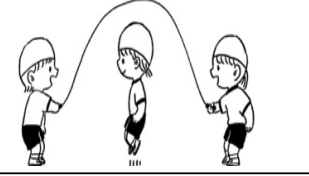
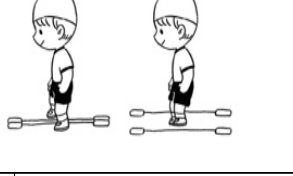
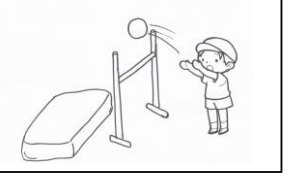
(2) 単元の評価規準

知識・技能	①体の動きを高める運動の行い方について、言ったり書いたりしている。 ②体の各部位の可動範囲を広げる体の動きを高めることができる。 ③人やものの動き、または場所の広さや形状などの環境の変化に対応して、タイミングやバランスよく動いたり、リズムカルに動いたり、力の入れ方を加減したりする体の動きを高めることができる。 ④自己の体重を利用したり、人や物などの抵抗に対してそれを動かしたりすることによって、力強い動きを高めている。
思考・判断・表現	①動きのポイントと自己や仲間の動きを比較し、自己や仲間の課題を見付けている。 ②自己の体力に応じて取り組む動きを選んだり、動きに工夫を加えたりしている。 ③観察し合って見付けたポイントや分かったこと、解決の仕方や改善方法について伝えている。
主体的に学習に取り組む態度	①体の動きを高める運動に積極的に取り組もうとしている。 ②互いの動きを観察し合ったり、教え合ったりするなど、仲間と助け合おうとしている。 ③学習に必要な物や用具の準備などで、役割を果たそうとしている。 ④分かったことを伝え合ったり、課題の解決方法を工夫したりする際に、仲間の考えや取組を認めようとしている。 ⑤運動の場の危険物を取り除くとともに、用具の使い方や周囲の安全に気を配っている。

(3) 学習過程 ※部内授業で行った第6学年第Ⅰ期の学習過程を記載しています。

時間	1	2	3	4
段階	【第6学年 第Ⅰ期】 学び方を知る段階			
子供の姿	運動との出会いを通し、問いをもつ。	自分の体力に応じた学習課題を見いだす。	「体の動きを高める運動」の学び方を知り、学習課題を解決する。 他者の学び方に目を向けて比較したり、客観的に自分を見たりして振り返り、新たな学習課題を見いだす。	
学習活動	1 プロモーションムービーを観る。 2 運動に取り組む。 3 感想や問いをもつ。	1 問いから学習課題への見だし方を知る。 2 運動に取り組む。	1 学習課題を確認する。 2 運動に取り組む。 3 新たな学習課題を見いだす。	

(4) 第6学年 第I期の単元の指導と評価の計画

時間	1	2	3・4(本時)
段階	問いをもち、学習課題を見いだす。		「体の動きを高める運動」の学び方を知り、課題を解決する。
学習過程	運動との出会い 問いをもつ	問いから学習課題を見いだす	ポイントを意識しながら高める。 動きを工夫しながら高める。
学習活動	1 集合、整列、挨拶を行う 2 これまでの学習経験を振り返る。 3 体の動きを高める運動のプロモーションムービーを観る。 4 準備運動を行う。 2 前時にもった問いを共有する。 3 準備運動を行う。 4 体の柔らかさを高めるための運動に取り組む。「エンジョイストレッチ」 5 巧み動きを高めるための運動・力強い動きを高めるための運動に取り組む。 5 巧み動きを高めるための運動・力強い動きを高めるための運動に取り組む。 2 前時の学習を想起する。 3 準備運動を行う。 4 体の柔らかさを高めるための運動に取り組む。「エンジョイストレッチ」 5 自分の学習課題を確認する。 6 巧み動きを高めるための運動・力強い動きを高めるための運動に取り組む。		
	○長なわ+(タイミング)  6 運動を通して考えたり、感じたりした問いをもつ。 7 片付け・整理運動を行う。 8 振り返りを行う。	○ペットボトルバンパー(リズミカル)  6 片付け・整理運動を行う。 7 振り返りを行う。	○スラックレール(バランス)  7 片付け・整理運動を行う。 8 振り返りを行い、次時に取り組む運動を選択する。 ※第4時には、第5時以降の見通しをもつとともに、目標の設定をする。
	○風船けまり(力の入れ加減) 	○ガロンスロー(力強い動き) 	
教師のかかわり	「やってみてどうだった?(実感)」 ⇒子どもの「やってみたい。」「楽しそう。」という思いを大切に。実感したことを問いとして、価値付けていく。	「何を高めたいの?何が高まったと思う?(高まり)」 ⇒体の動きを高める運動は目的をもって運動に取り組んでいくことが大切であることを意識付ける。	「どうしたらできたの?(ポイント)」 ⇒ポイント意識をもって運動することの大切さを確認する。 「どんな工夫をすると高められるかな?(工夫)」 ⇒動きを工夫する視点を示しながら体の動きを高める方法を確認していく。 「さらに高めるためにどんなことが必要かな?(活用)」 ⇒さらに、体の動きを高めていくために必要なことについて確認していく。

(5) 本時の学習 (4/4時間目)

① 本時のねらい

学習課題を解決するために、自己の体力に応じて体の柔らかさや巧みな動きや力強い動きを高める運動に取り組むことができるようにする。【思考・判断・表現】

② 本時の展開

学習活動	○教師のかかわり ○配慮の必要な子供への支援	□評価
1 共有スペースに集合・整列・挨拶 2 前時想起 3 準備運動を行う。 4 体の柔らかさを高める運動に取り組む。 エンジョイストレッチ 5 自分の学習課題を確認する。 6 巧みな動きを高めるための運動や力強い動きを高めるための運動に取り組む。 (下記から1つ以上選択) ○スラックレール (バランス) ○風船けまり (力の入れ加減) ○バンブーステップ (リズムカル) ○長なわ+ (タイミング) ○ガロンスロー (力強い動き) ※教師が子供の学習状況を見取り、子供同士の共有を図り、学び方の確認を行う。	○教師のかかわり ○配慮の必要な子供への支援 ○部位を意識させるよう声をかける。 ○動きの高まりが実感できるように、運動を行う前と後に現状を知る活動(計測)を取り入れる。 ○全体を円に形に広げ、一斉に運動に取り組み、互いの動きを見合えるようにする。 ○子供の学習カードから「問い」「学習課題」共有したい内容を取り上げる。 ○自分の学習課題を同じ運動の場の仲間に伝え、学び合いにつなげるようにする。 ○動きの工夫、ポイントについて、共有スペースを活用しながら確認する。 ○子供の思考を促すことを意識し、ねらいに迫れるように言葉掛けをしたり、共有を促したりする。 ◎高まりの実感がなかなか伴わないようであれば、動画を撮影することや、仲間との対話を薦める。	□なりたい自分の姿(ゴールイメージ)を明確にもち、ゴールに向けて自分のめあてを明確にしている。 □いくつかの運動に取り組みながら、自分の動きの高まりを実感し、それを運動の場や共有スペースで伝え合っている。
【運動に取り組んでいるときの子供の学びのイメージ】 ※共有スペースについては、手立てのページをご覧ください。 動画撮影や、仲間のサポートのもと、体の動きを高める子供 仲間の課題を共有し、課題解決に向かう子供たち 友達の動きを見て、課題解決しようとしている子供 課題解決をしながら体の動きを高める子供 		
7 整理運動・片付け 8 振り返りを行う。	○各部位を意識して運動するように声を掛ける。 ○気付いたポイントや仲間との関わりを意図的に取り上げるようにする。 ○課題解決の進捗状況を聞き、次時以降の見通しをもてるようにする。	□自分の学習を振り返り、仲間に言葉で大切なことを伝えることができる。



体の動きを高める
運動領域部会
実証授業

令和7年11月28日(金)

14:00~

大田区立大森第四小学校